

タオパネ！シエラレオネ通信

「タオパネ！」とは、現地ティムニ語で「Join Hands!」という意味です。

第5号 (2009年9月)

作成者: 藤井 千江美



マンゴの季節は誰もがマンゴを片手に！



お姉さんと一緒に水運び！

皆様へ

シエラレオネに赴任してから1年、アフリカ諸国を訪れ始めて約20年、とうとう私もマラリアと腸チフスに罹ってしまいました。ダブルパンチだったからかもしれませんが、こんなに辛いものとは思っていませんでした。頭が割れるような頭痛、嘔吐・吐き気、関節痛、発熱(生まれて初めて38度以上の熱がでました)、そして一番辛かったことは、食欲不振でした。味覚が全くなくなり、何を飲んでも食べても変な味がし、水一口飲むこともやっとなという感じで、食べている時が1番幸せ！と言っていた私が、食べること・飲むことが本当に苦痛になり、自分でもびっくりしました。看護師として病院に勤務していた時に、抗がん剤などの副作用で食べれない患者さんに、「少しでもいいですので、食べてくださいね。」と言っていた無神経な私自身の言葉を思い出していました。「食べなければ…」と頑張っても、一口食べることがやっとな…患者さんのつらい気持ちが少しは理解できたような気がします。もう二度と罹りたくないですが、貴重な経験でした。首都フリータウンの中でも1番設備が整っている病院に3日間入院。看護師の視点から見ると、「あれれ??大丈夫かな??」という場面もありましたが、看護師さんやスタッフの人達の教育もきちんとしていて安心して過ごすことができました。

今回の経験を通して、こういう僻地で仕事をするということは、健康な身体があってこそできることなんだとしみじみ思いました。今は、ストレス解消！健康維持！ついでに、ダイエットも含めて、飼っている犬ちゃんと一緒に毎日仕事終了後1時間、大自然の中を歩いています。

村の診療所 2 軒の改修工事終了後の様子

昨年 9 月から本格的に取り組んでいました村の診療所 2 軒の改修工事は、今年 3 月末に完成し、6 月 28 日 Kamagbewu 診療所、8 月 8 日 Mange Bissan 診療所にて公式の譲渡式が行われました。両方の診療所共に、県保健局代表、県議会代表、各地区代表のチーフ、コミュニティなどから約 150 名から 200 名が参加して下さいました。下記に、改修前後の診療所と式典の様子をご紹介します。

<Kamagbewu 診療所>



譲渡式の様子



改修前の診療所



改修後

<Mange Bissan 診療所>



譲渡式に集まった人々



譲渡式の様子

〔ピンクの服は診療所看護師さんのユニフォーム〕



改修前の診療所



改修後の診療所

カンビア県の四季の移り変わり与人々の暮らし



雨季(5月～9月)のカンビア

雨季でも一番雨量が多いのは8月です。本当にバケツをひっくりかえしたような雨が何時間も降り続くことがあります。トタンの屋根に穴が開くのでは・・・？と思わせるくらいの迫力です。カンビアとフリータウンを結ぶ主要幹線道路もあちこち穴ぼこ・水溜りだらけで、移動が本当に大変です。



お米が主食のシエラレオネ・・・水田の様子

雨季の時期は、農業の全盛期。お米、ピーナツ、キャッサバ、芋類などたくさんの農作物が植えられます。そして雨期明けが収穫時期。ですので、地元の人たちにとっては、一番食料がない時期にもなり、お腹を空かせた子どもたちに多く出会います。



マンゴの季節(5月)

5月はマンゴの季節……特にカンビア県は、右を見ても左を見てもとにかくマンゴだらけになります。日本ではマンゴ1個数千円すると聞き、思わず1本の木でいくらになるんだろう？と計算してしまいました。(苦笑) マンゴがあまり好きでない私は、雨季明けに訪れるオレンジの季節を心待ちにしています。マンゴが好きな方には、本当に申し訳ありません……。



乾季(10月～4月)

乾季、特に1月から2月はハマタンというサハラ砂漠からの砂が舞い曇った埃っぽい日々が続き、この時期が一番涼しいです。一年の大部分をウチワを片手に過ごしている私でさえ、肌寒く感じる日があるくらいです。道路も雨季とは全く違って、前に車が走っていると前方が見えなくなるほどの砂埃です。雨が一滴も降らず、雨期直前の4月から5月にかけては、井戸が涸れ川から水を運ぶ人々も増え下痢感染症も増える時期です。

今月の新発見

先月号では、シエラレオネ全国に歯科医がわずか10人とお伝えしましたが、ここフリータウンで入院？？？どんな病院なんだろう？って関心を持たれた方も多いかと思います。ここに、今回入院した病院の紹介を少しさせていただきますね。



この病院は、インド人が経営しており、インドから契約ベースでたくさんの医師たちが働いていました。ただし、看護師さんは全てシエラレオネの人達でした。部屋は大部屋もちろんありますが、私はあまりのつらさに、個室を利用しました。テレビ(但し映らず)、クーラー(但し水漏れがひどくて使えず)、トイレ・シャワー付き(湯はほとんど出ず)で、想像していたよりはかなり快適でした。また、毎朝ボランティアの人がそうじ
3日間入院した病室の様子と看護師さん

に来てくれて清潔でした。因みに、入院 3 日間にかかった費用(点滴などの薬代込み)は、US\$328・・・、値段も立派でした・・・。

次号の予定

読者の方々からリクエストを頂きました、シエラレオネの食事、そして子供たちの生活から学校の様子などをお伝えできればと思います。